

大学生の環境意識調査*¹

—長崎ウエスレヤン短期大学のケース—

佐藤快信*²、西川芳昭*³、道山治延*⁴、佐藤敬一*⁵

Investigation of consideration of university student to environment*¹

—Case of Nagasaki Wesleyan Junior College—

Yoshinobu Sato*²、Yoshiaki Nishikawa*³、Harunobu Michiyama*⁴、Keiichi Sato*⁵

はじめに

文部省の学習指導要領の改訂が2002年度より実施されることとなり、その中で「総合的な学習の時間」として、情報教育・環境教育・異文化理解教育・福祉教育などが展開されることになっている。「総合的な学習の時間」は、小学校3年生から高校3年生までの長期にわたるプログラムであり、今後、高等教育にそのような教育を受けた学生が入学してくることとなる。

また、平成5年以降の大学設置基準の大綱化や18歳人口の減少や進学率の増加により、従来の学部教育の質も変化を生じ、大学または学部間の教育目標の差異は小さくなり、専門性を学ぶことよりも教養を学ばせる傾向が強くなってきている。

そうした流れの中で、高等教育における教養科目としての環境教育の方向性を探ることは、各分野にたつ学部における専門科目との関連において重要性を増すものと考えられる。そこで、本調査では、高等教育の教養教育としての環境教育のあり方について、環境及び環境問題に関する学生の意識調査をおこなうことによって、その方向性について検討する資料を収集することにある。

1. 環境意識調査の概要

1. 1 調査目的

学生に対して環境に関する意識を調査し、その結果を解析し、短期大学における環境教育の在り方を検討し、環境問題への行動への意識および実

態へと関心の中心がおかれており、そうした意識・実態がどのような背景によって生じているのかを検討している調査は少ない。

本調査では、高等教育における環境教育のあり方を可能な限り、そうした意識形成がどのような過程で形成されてきたのかを、高校教育が行われている科目との関連から検討し、環境教育の方向性について、若干の考察をおこなうこととする。

1. 2 調査対象

長崎ウエスレヤン短期大学に在籍する英語科、教養科の学生1,2年生を対象とした。

1. 3 調査方法

集合調査法によった。

1. 4 調査時期

1999年7月16日および23日
1年生は16日、2年生は23日に実施した。

2. 調査結果および考察

2. 1 回答者の概要

(1) 回答者の性別

回答者数は、216名で、男性は66名(30.6%)、女性は149名(69.0%)、1名不明であった。

(2) 学年、学科

回答者の学年は、1年生が158名(73.1%)、2年

*¹ Received Oct.31,1999. *² 長崎ウエスレヤン短期大学助教授 Nagasaki Wesleyan Junior College

*³ 久留米大学 Kurume University *⁴ 福岡大学 Fukuoka University

*⁵ 東京農工大学 Tokyo University of Agriculture and Technology

生が55名(25.5%)であり、所属する学科は英語科77名(35.6%)、教養科137名(63.4%)となっている。

(3) 回答者の自然との親密性

子どもの頃、自然の中で良く遊んだと思うかという問いには、「思う」が67.6%、「思わない」が11.6%であった。

子ども頃良く遊んでいた場所とはどこかという問いとクロスさせると、「思う」と回答した人たちの中で「公園」で遊んでいた人たちの比率は26.7%であるのに対し、「思わない」と回答した人たちのそれは40.0%で、両者の違いは大きい。回答者の意識の中では、「公園」には自然の要素が少ないという意識が存在していると見えよう。

2. 2 「環境」に関する意識、知識

(1) 回答者の「環境」に対する知識の認識度

「環境」に対する知識の認識については、「よく認識している」と回答したものが7.9%、「まあまあ認識している」と回答したものが55.6%、「ほとんど認識していない」と回答したものが31.9%、「全然認識していない」と回答したものが4.2%となっている。

認識していると回答したものが、どこからその知識の情報得たのかという問いに関しては、テレビと回答するものが47.7%と一番多く、ついで新聞の10.2%となっている。マスメディアの環境に

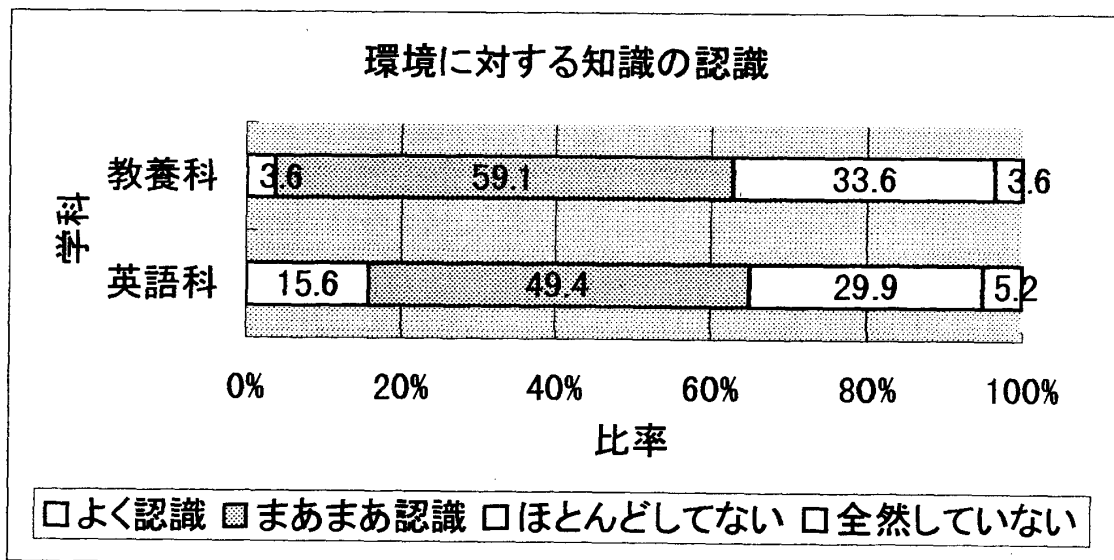
関する情報量が多いといえ、もし仮にマスメディアが誤った情報を提供するとその影響も多いといえよう。例えば、「割り箸を使わず持ち箸運動」が取り上げられた際、割りばしの材料が熱帯林を使っているかのように報道され、割りばしを使わないことが熱帯林を救うことだと誤った情報に基づく割りばしバッシングが起きたことがある。本来の割りばしは、製材から出る商品にならない端材の利用であり、資源の有効利用を実践するものである。特に最近では、使用後の割りばしを紙の原料にする運動も学生生協などで行われている。

(2) 高校で履修した科目の中で「環境」を意識した科目

高校で履修した科目の中で「環境」を意識した科目は何かという問いに対して、一番多かった科目は「社会」(38.9%)で、ついで「理科」(23.1%)となっている。「音楽」、「美術」で意識したという回答者はいなかった。

また、回答の不明が20.8%となっており、特性の科目に絞れなかったか、学校というよりはメディアからの情報で意識したということが多いのかもしれない。そこで、回答が不明の内訳をみるため、Q2の「情報をどこから得たのか」という回答とクロスさせてみると、不明と回答した回答の60.0%が「テレビ」であり、「新聞」、「雑誌」まで入れると80.0%となる。

したがって、学校の授業では「環境」を「環境



問題」という社会問題として、生徒に提供されている面が多いのではないかと推測される。また、環境を自らの周りから意識するよりもメディアから意識する傾向が強いということもいえよう。

(3) 「現代社会」の履修状況

「環境」を意識した科目が多かった「社会」であるが、高校での「社会」では、現代社会、日本史、世界史など履修するようになっているが、ここでは「現代社会」に焦点を絞って、その履修状況について調査した結果、「履修した」は70.8%、「履修しなかった」は28.7%となった。

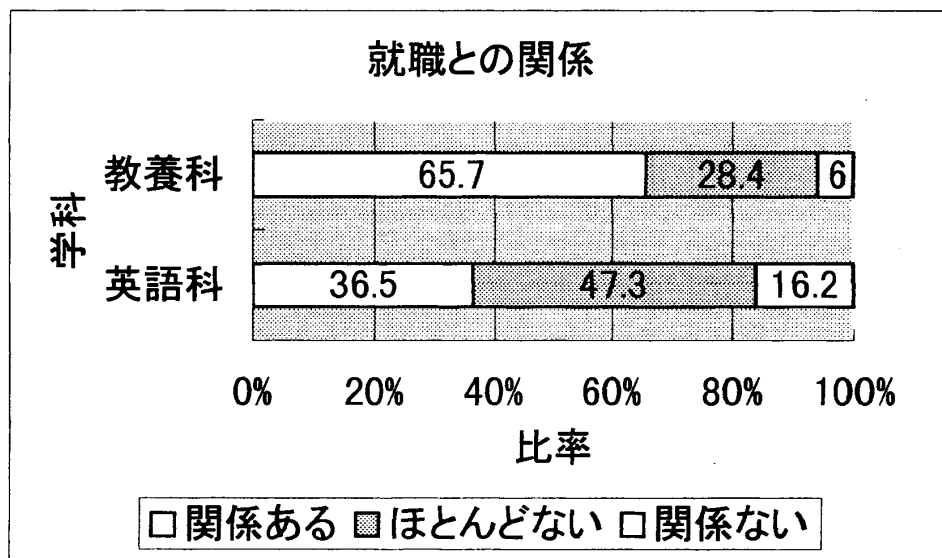
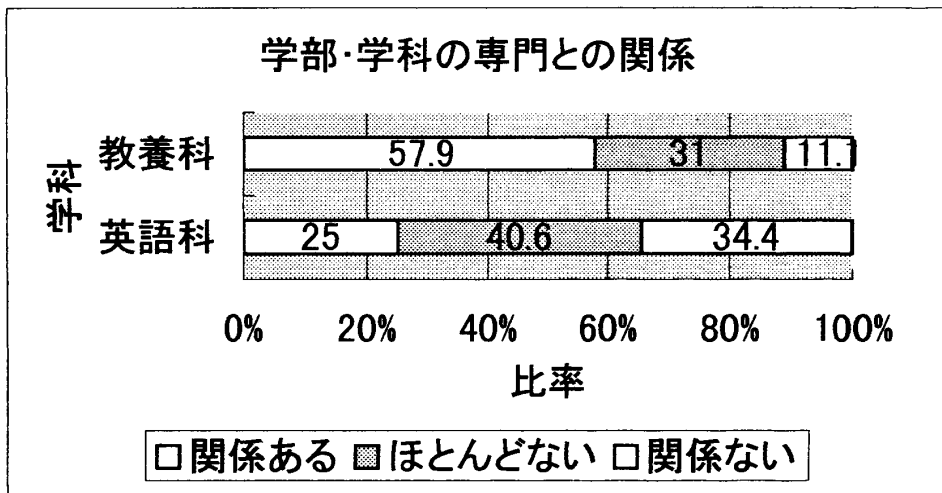
さらに、「現代社会」で扱っている単元で一番印象に残ったものは、「経済」が16.7%と最も多く、ついで「政治」15.3%、「福祉」の12.5%となっている。「環境」に関しては、7.4%とそれほ

ど多くはなかった。しかしながら、「環境」と回答した人たちの中で環境を意識した科目は何かという問いでは「社会」と回答した人たちが71.5%と占めている点は、注目すべき事である。

(4) 「環境」に関する知識と現在学んでいる専門との関連性

「環境」に関する知識と現在学んでいる専門との関連性については、「関連ある」は41.2%、「関連はほとんどない」は30.1%、「関連ない」は16.7%であった。

学科の違いを見てみると、英語科では「関連ある」が25.0%であるのに対し、教養科では57.9%となり、所属する学科によってその意識は大きく異なることがわかる。



(5) 「環境」に関する知識と将来つく職業との関連性

「環境」に関する知識と将来つく職業との関連性については、「関連ある」は53.2%、「関連はほとんどない」は34.3%、「関連ない」は9.3%であった。

学科の違いを見てみると、英語科では「関連ある」が36.5%であるのに対し、教養科では65.6%となり、所属する学科によってその意識は大きく異なることがわかる。先の(4)項の学ぶ専門性との関連性の比率とを比較すると、環境との関連性を大きくなると予想していることがわかる。したがって、学生の意識には、社会が「環境」に対してのニーズを求めてくることを感じているといえよう。

(6) 環境問題で関心のある事項(複数回答)

環境問題で関心のある事項については、60%を超えた事項は「オゾン層の破壊」69.4%、「地球の温暖化」68.1%、「ごみの増加」60.6%となった。また、関心の少なかった事項は、「南北問題」7.9%であった。それ以外の事項については、20%~33%であった。

「環境学」の授業でも関心のある環境問題ということになると、同様の傾向が見られ、学生たちの意識のなかに「オゾン層の破壊」や「地球の温暖

化」が強く認識されていることがわかる。その彼らはその情報をどこから得ているのかをクロスしてみると、テレビが最も多いが、他の事項と比較してみると、学校・大学が若干多いことが特徴的である。

(7) 公害問題で関心のある事項(複数回答)

公害問題で関心のある事項については、もっとも関心の高かった事項は「大気汚染」の74.1%、ついで「ごみ問題」の69.9%、「水質の汚濁」の56.0%であった。関心の低かった事項は「振動」の9.7%であった。

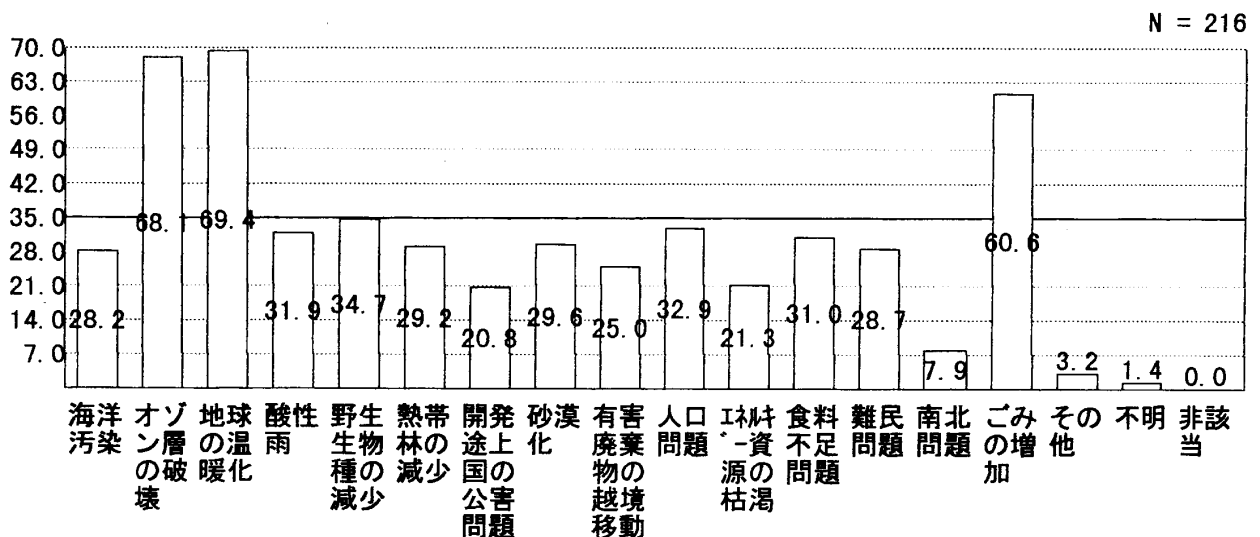
(8) 将来一番気になる事項(3つ選択)

将来一番気になる事項については、もっとも高かったのは「オゾン層の破壊」の52.3%、ついで「地球の温暖化」の50.0%、「ごみの増加」の35.2%であった。公害問題の中で関心の高かった「大気汚染」に関しては、18.5%となった。将来一番気になることになると、ローカルな公害問題よりもグローバルな環境問題へと関心はシフトするといえよう。

(9) 環境関連の言葉の認識(複数回答)

環境に関連する言葉を知っているかということでは、80%以上の人を知っているとした言葉は、

No. 13 環境問題で関心のある事項(複数回答) <MA> 16カテゴリ



「ダイオキシン」の86.6%、「環境ホルモン」の84.3%、「食品添加物」の83.3%であった。一方、10%以下しか知らなかった言葉は、「ゼロ・エミッション」の0.9%、「ビオトープ」の1.9%、「内発的発展」の2.8%、「景観作物」の4.2%、「持続可能な発展」の4.6%であった。聞きなれていない言葉は、総じて開発に関連する言葉であった。

ン代替ガスの開発」は5.1%、「開発途上国への公害防止技術の援助」は8.3%と低かった。

(10) 環境問題に関して日本が果たす役割

環境問題に関して日本が果たす役割については、「資源・エネルギーの有効利用」の26.4%、「二酸化炭素の排出削減」の19.9%、「国際的立場からの地球環境問題の解決」の18.1%、「開発途上国への経済的援助」の14.8%となっており、「フロ

(11) 環境保全の責任

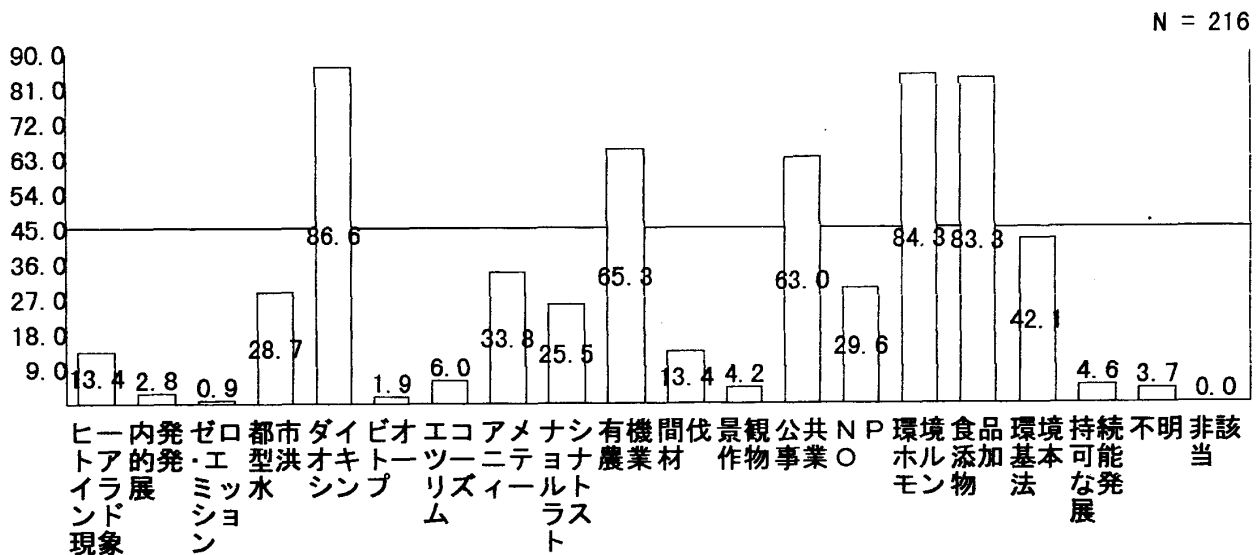
環境保全の責任は誰が負うべきかという問いに関しては、「国民」とする回答は46.8%で最も高かった。ついで、「政府」の24.1%で、「企業」とする回答は7.9%であった。

2. 2 森林に関する意識

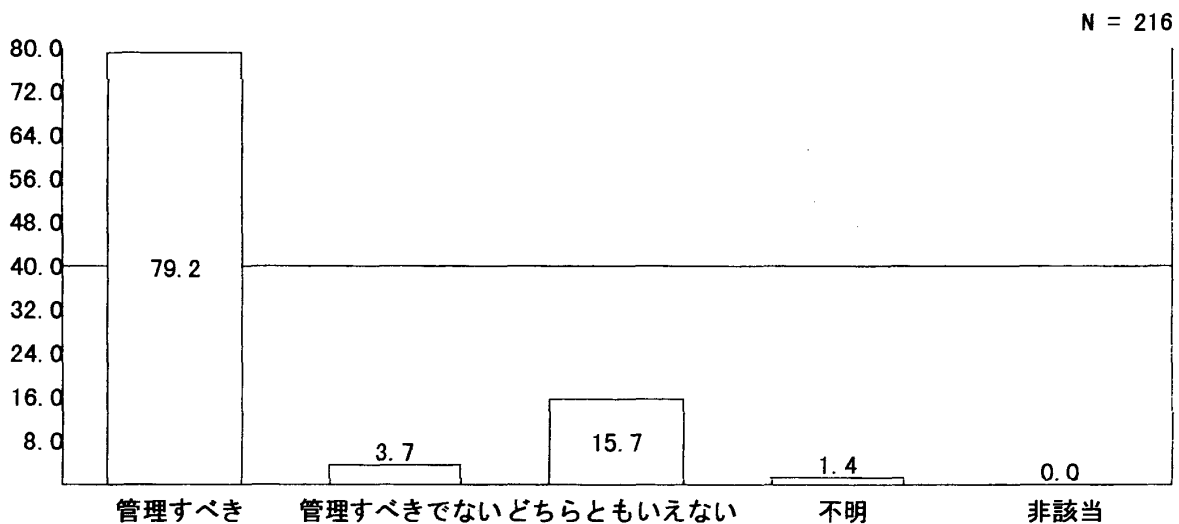
(1) 森林を守るための管理

森林を人間が管理すべきかという問いには、「管理すべき」は79.2%、「管理すべきでない」は12.0%、「どちらともいえない」は10.6%であっ

No. 17 環境関連の言葉の認識 (複数回答) <MA> 18カゴリ



No. 29 森林を守るための管理 <SA> 3カゴリ



た。

(2) 税金の使用の是非

森林を管理する時、税金使うべきかという問いには、「積極的にすべき」は38.4%、「すべきでない」は13.0%、「どちらともいえない」は46.8%であった。

(3) 木材の使用について

木材の使用については、「使うべき」は3.2%、「使うべきでない」は44.4%、「どちらともいえない」は50.5%であった。

(4) 国産材の使用について

国産材の使用については、「使うべき」は10.2%、「使うべきでない」は19.0%、「どちらともいえない」は69.4%であった。

(5) 水資源利用からの森林保護

水資源の観点から、上流域の森林に税金を使うことについては、「賛成」が31.5%、「反対」が10.2%、「どちらともいえない」が56.5%であった。

2. 3 農村地域に関する意識

(1) 農村環境の保護

農村地域の環境を守るべきかという問いには、「はい」が84.3%、「いいえ」が0.5%、「どちらと

もいえない」が13.9%であった。

その理由については、「未来の子供たちのために残すため」が38.9%と回答が高く、ついで「洪水などの災害を防ぐため」が20.8%であった。「景観保全のため」は4.2%と回答は低かった。

(2) 政府の役割

農村地域の環境のために政府がすべき役割については、「下水や道路を整備し、住みやすくする」が40.3%、「農村から生産されたものの販売を促進する」が37.0%と回答は高く、「ないもすべきでない」は5.1%となっており、農村地域の環境に対して何らかの措置を講じる必要性があることを認識しているといえよう。

(3) 一般市民の役割

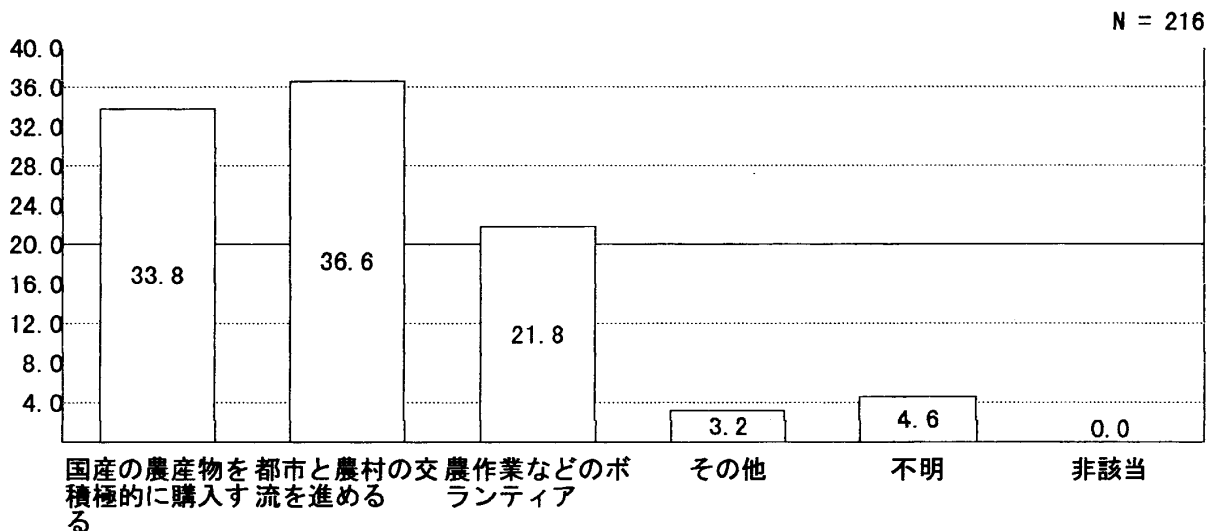
農村地域の環境保全のために一般市民が何をすべきかという問いには、「都市と農村の交流を進める」が36.6%、「国産の農産物を積極的に購入する」が33.8%、「農作業などの労働をボランティアで行なう」が21.8%であった。

まとめ

今回の学生の環境に対する意識調査の結果から、以下のことがいえよう。

(1) 環境に関する情報源は、生活環境を反映して「テレビ」が最も多く、70%を若干上回る。そ

No. 37 一般市民の役割 <SA> 4桁コリ



のため、テレビから出る情報が誤った情報を提供すると、その影響は大きいといえる。

(2) 環境に関する情報源との関連において、高校における「現代社会」の影響は現段階では明確にできなかった。

(3) 学生の意識における環境問題の関心事は、ローカルな公害問題よりもグローバルな環境問題の方が、関心が強いといえる。

(4) 環境関連の言葉の認識では、テレビ・新聞などのマスメディアで報道されている言葉に集中し、その周辺にある開発に関連する言葉への認識は低いといえる。

(5) 環境保全に対する責任については、「国民」とする回答が多く、環境問題の解決には国民一人一人の関わりが必要だという認識を持っている。

(6) 環境保全に関わる森林に対する意識では、管理すべきという考えを持ちながら、その重要性についての知識が充分でなく、森林・木材教育の必要性が感じられる。

(7) 棚田の保全に象徴される農村景観に関しては、将来の子どものためという世代間問題としてとらえており、農村の社会インフラ整備の必要性や都市との交流の重要性を感じているといえる。

おわりに

今回の「学生の環境意識調査」は、長崎ウエスレヤン短期大学 地域総合研究所の研究補助を受けておこなった。

また、この調査は長崎ウエスレヤン短期大学、久留米大学、福岡大学、東京農工大学、長崎県央看護学校においておこなうことにしており、一部大学で調査が完了していないため、本報告では調査が終了した長崎ウエスレヤン短期大学の結果の報告とした。なお、全体の調査結果については、調査完了後発表する予定である。

謝辞

調査のために、場所と時間を提供していただいた長崎ウエスレヤン短期大学の就職講座の関係者に感謝の意を表します。

参考文献

1. 大学生の環境問題に対する意識と環境にやさしい行動、山田一裕・須藤隆一、環境教育、Vol. 6-1、49-56、1997。
2. 環境教育についての若干の考察、岡部昭二・塚田蒼生子・三品宏美、環境教育、Vol. 6-2、11-17、1997。
3. 大学・短大・看護学生の地球環境に関する意識調査結果、中村圭三・高山晴光、No. 4、1-28、1996年。

〔資料編〕

環境意識調査票

1999年度

- ・回答は、あまり考え込まずに直感的に回答してください。
・該当する回答の番号に○をつけてください。
・断りがない限り、回答は1つです。
・回答は、統計処理のみに使い、個人のデータは公表されません。

調査代表者：長崎ウエスレヤン短期大学 地域総合研究所 佐藤快信

(フェイスシート)

F.1 あなたの性別は、どちらですか？

1. 男性 2. 女性

F.2 あなたの年齢は、どの範囲に入りますか？

1. 18歳—20歳以下 2. 21歳—24歳以下 3. 25歳—30歳以下 4. 31歳以上

F.3 あなたが、所属している学部は何ですか？

1. 農学部 2. 法学部 3. 経済学部 4. 英語科
5. 教養科 6. 看護 7. その他()

F.4 あなたの学年は、何年生ですか？

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生

F.5 あなたの出身地は、どこですか？

1. 北海道 2. 東北地方 3. 東京都 4. 神奈川県
5. 千葉県 6. 埼玉県 7. 栃木県 8. 茨城県
9. 東海地方 10. 中部・北陸地方 11. 近畿地方 12. 中国・四国地方
13. 福岡県 14. 佐賀県 15. 大分県 16. 長崎県
17. 熊本県 18. 宮崎県 19. 鹿児島県 20. 沖縄県
21. 海外

Q.1 自分では、「環境」に対する知識を認識していると思いますか？

1. よく認識している 2. まあまあ認識している
3. ほとんど認識していない 4. ぜんぜん認識していない

Q.1で回答を1または2と回答した場合→Q.2へ 3または4と回答した場合→Q.3へ

Q.2 あなたが認識しているとする知識は、主にどこからの情報ですか？

1. テレビ 2. 新聞 3. 雑誌 4. 学校・大学
5. 友人 6. 教師 7. その他

Q.3 あなたが高校で履修した科目の中で「環境」を意識した科目は、何の科目でしたか？

1. 国語 2. 数学 3. 理科 4. 社会
5. 音楽 6. 美術 7. 保健・体育 8. その他

Q.4 あなたは、高校で「現代社会」を履修しましたか？

1. 履修した 2. 履修していない

Q.4で1と回答した場合→Q.5へ 2と回答した場合→Q.6へ

Q.5 あなたが、「現代社会」の単元で一番印象に残った単元は何でしたか？

1. 経済 2. 法律 3. 政治 4. 環境
5. 福祉 6. 心理 7. その他

Q.6 あなたは、「環境」に関する知識と現在の専門と関係があると思いますか？

1. 関係がある 2. 関係はほとんどない 3. 関係ない

Q.7 あなたは、「環境」に関する知識が、将来、自分が就く職業と関係あると思いますか？

1. 関係がある 2. 関係はほとんどない 3. 関係ない

Q.8 あなたが、環境問題で関心のあることは何ですか？いくつでも(複数回答)

1. 海洋汚染 2. オゾン層の破壊 3. 地球の温暖化 4. 酸性雨
5. 野生生物種の減少 6. 熱帯雨林の減少 7. 開発途上国の公害問題
8. 砂漠化 9. 有害廃棄物の越境移動 10. 人口問題
11. エネルギー資源の枯渇 12. 食糧不足問題 13. 難民問題
14. 南北問題 15. ごみの増加 16. その他()

Q.9 あなたは、環境問題と公害は同じと思っていますか？

1. 思っている 2. 思っていない

Q.10 あなたが、公害問題で関心のあることは何ですか？いくつでも(複数回答)

1. 大気汚染 2. 水質の汚濁 3. 騒音 4. 振動
5. 地盤沈下 6. 悪臭 7. 土壌汚染 8. ごみ問題

Q.11 あなたが、将来、一番気になることは以下のどれですか？3つ回答してください。

1. 海洋汚染 2. オゾン層の破壊 3. 地球の温暖化 4. 酸性雨
5. 野生生物種の減少 6. 熱帯雨林の減少 7. 開発途上国の公害問題
8. 砂漠化 9. 有害廃棄物の越境移動 10. 人口問題
11. エネルギー資源の枯渇 12. 食糧不足問題 13. 難民問題
14. 南北問題 15. ごみの増加 16. 大気汚染 17. 水質の汚濁
18. 騒音 19. 振動 20. 地盤沈下 21. 悪臭
22. 土壌汚染 23. その他()

Q.12 あなたは、以下の言葉を聞いたことがありますか？いくつでも(複数回答)

1. ヒートアイランド現象 2. 内発的発展 3. ゼロ・エミッション 4. 都市型洪水
5. ダイオキシン 6. ビオトープ 7. エコツーリズム 8. アメニティー
9. ナショナルトラスト 10. 有機農業 11. 間伐材 12. 景観作物
13. 公共事業 14. NPO 15. 環境ホルモン 16. 食品添加物
17. 環境基本法 18. 持続可能な発展

- Q.13 環境問題に関して、日本が果たす役割について、あなたは何が最も重要と思いますか？
- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 開発途上国への経済的援助 | 2. 開発途上国への公害防止技術の援助 |
| 3. 資源・エネルギーの有効利用 | 4. 二酸化炭素の排出削減 |
| 5. フロン代替ガスの開発 | 6. 国際的立場からの地球環境問題の解決 |
| 7. その他() | |
- Q.14 あなたは、環境保全は誰がもっとも責任を負うべきだと思いますか？
- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|
| 1. 政府 | 2. 自治体 | 3. 国民 | 4. 市民団体 |
| 5. 企業 | 6. その他() | | |
- Q.15 あなたが、子供の頃遊んでいた場所はおおよそどこですか？
- | | | | |
|-----------|--------|-------|-------|
| 1. 海 | 2. 川や山 | 3. 道路 | 4. 公園 |
| 5. その他() | | | |
- Q.16 あなたが、現在住んでいる地域の環境はおおよそ以下のどれですか？
- | | | | |
|-----------|--------|--------|--------|
| 1. 都市部 | 2. 農村部 | 3. 山村部 | 4. 漁村部 |
| 5. その他() | | | |
- Q.17 あなたは、子供の頃、自然の中でよく遊んだと思いますか？
- | | | |
|-------|---------|--------------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. どちらともいえない |
|-------|---------|--------------|
- Q.18 あなたは、子供の頃と比べて、自分の周りから自然が少なくなったと思いますか？
- | | | |
|-------|---------|--------------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. どちらともいえない |
|-------|---------|--------------|
- Q.19 あなたは、そのことについて、どう思いますか？
- | | | |
|-----------|---------|--------------|
| 1. 良くないこと | 2. 良いこと | 3. どちらともいえない |
|-----------|---------|--------------|
- Q.20 あなたが、今、遊ぶとしたら、どちらを選びますか？
- | | | | |
|-----------|--------|--------|--------|
| 1. 都市部 | 2. 農村部 | 3. 山村部 | 4. 漁村部 |
| 5. その他() | | | |
- Q.21 あなたが、将来生活するとしたら、どこを選びますか？
- | | | | |
|-----------|--------|--------|--------|
| 1. 都市部 | 2. 農村部 | 3. 山村部 | 4. 漁村部 |
| 5. その他() | | | |
- Q.22 あなたは、今、環境を守る運動に参加していますか？
- | | |
|-----------|------------|
| 1. 参加している | 2. 参加していない |
|-----------|------------|
- Q.23 あなたは、どんな環境保全運動を知っていますか？
- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. ペットボトルのリサイクル | 2. アイドリング・ストップ |
| 3. 古紙の回収 | 3. 糠早干拓 |
| 4. その他() | |

- Q.24 あなたは、日本の森林を守るために、人間が管理をしないといけないと思いますか？
1.管理すべき 2.管理すべきでない 3. どちらともいえない
- Q.25 あなたは、森林を管理するとき、税金を使うべきだと思いますか？
1.積極的にすべき 2. すべきでない 3. どちらともいえない
- Q.26 あなたは、木材をもっと使うべきだと思いますか？
1.使うべき 2.使っていけない 3. どちらともいえない
- Q.27 あなたは、国産材をもっと使うべきだと思いますか？
1.使うべき 2.使っていけない 3. どちらともいえない
- Q.28 あなたは、水資源の観点から、上流域の森林に税金を使うことに賛成ですか？
1.賛成 2.反対 3. どちらともいえない
- Q.29 あなたは、農村地域の環境を守るべきだと思いますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらともいえない
- Q.30 あなたは、農村地域の環境を守る理由は何だと思いますか？
1.食料生産のため 2.景観保全のため 3.洪水などの災害を防ぐため
4.くつろげる場所を提供するため 5.未来の子供たちのために残すため
- Q.31 農村地域の環境のために政府は、何をすべきでしょうか？
1.下水や道路を整備し、住みやすくする 2.農村に住む人たちに税金で所得を保証する
3.農村から生産されたものの販売を推進する 4.なにもすべきでない
- Q.32 農村地域の環境保全のために一般市民は、何をすべきでしょうか？
1.国産の農産物を積極的に購入する 2.都市と農村の交流を進める
3.農作業などの労働をボランティアで行なう 4.その他()

以上

※ご協力ありがとうございました。